

西濃農林事務所の普及活動状況（令和6年12月）

今月の重点活動

■大垣養老高等学校 「西濃農業の現地巡回学習会」の開催

12月11日、西南濃農業普及事業推進協議会（事務局：農林事務所）は、大垣養老高校を対象に管内農業の現地巡回学習会を開催した。

学習会参加を希望した1年生22名の他、引率の教諭及び市町の関係職員等が参加し、管内で活躍する指導農業士など5経営体（土地利用型作物＋果樹、施設園芸、花き、畜産、6次産業化）を視察した。

生徒達は実際の農業技術や農業経営に触れることができ、「小さな梨がついているのは？」「ポット土にある赤い粒は？」等の質問やメモを取るなど、関心を持って学習する姿が見られた。

農林事務所は、この学習会が実際の農業現場を知ってもらう良い機会となり、将来の西濃地域の農業を担う人材を育てる一助になるよう企画・支援を行った。



【説明を受ける生徒】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲採種ほ（スマート農業） 土壤地力調査サンプル採取

大垣南の水稲採種ほ場で、全農岐阜、JAにしみのと連携してリモートセンシングによる可変施肥を行っている。

前年に撮影したドローンのリモートセンシングデータを基に、地力診断を行ったほ場において実際の地力を調査するため、12月17日、各関係機関が集まり土壌採取を行った。

採取した土壌は、農業技術センター土壌化学部の協力を得て、地力窒素を計測し、リモートセンシングデータやザルビオの地力マップとの比較を行い、今後の施肥量の決定に活用する予定である。



【土壌採取風景】

■冬春トマト 海津トマト部会 ぎふ清流GAP説明会を開催

11月29日、12月17日の2回にわたり、海津トマト部会のぎふ清流GAPの申請希望者を対象に説明会を開催した。

海津トマト部会の生産者3名と部会事務局が出席し、農林事務所が講師を担当した。1回目はぎふ清流GAP評価制度の概要と自己点検について、2回目は自己点検の結果を元に改善事項について説明を行った。参加した生産者は自身の経営の改善すべき部分について、熱心に考えていた。

農林事務所は、安心安全な農作物の生産に向けて、海津トマト部会のGAP活動を支援する。



【指導の様子】

■シュンギク ハクサイダニ対策の支援

シュンギクでは、冬季にハクサイダニ被害が問題となる。近年、防除効果の高い薬剤によって被害は軽減したが、ハクサイダニが好む雑草（ホトケノザ、ハコベなど）が繁茂するほ場では、防除時に雑草に隠れてしまい、十分な防除効果を得られないことがある。



【ハクサイダニ被害の雑草】

そこで農林事務所では、毎年ハクサイダニ被害が発生するほ場で、雑草繁茂前に雑草を除去することや、薬剤散布時に濡れ性の高い展着剤を加えるように指導している。

今後もハクサイダニ被害が軽減できるよう、シュンギク栽培を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キャベツ スマート農業機械による省力化実演作業

12月10日、養老町室原地区で農事組合法人が管理する加工業務用キャベツ栽培ほ場において、キャベツ収穫機による収穫作業の省力化とアシストスーツによる運搬作業の軽労化実証を行った。

生産者やJA等関係機関含め、35名ほどの参加者が見守る中、収穫機に生産者等が乗車し、収穫後の調整作業を行うなど体験した。

実演に当たり、農業者や管内の教育機関・市町・JA及び農林事務所で構成する西濃地域スマート農業研究会（事務局：農林事務所）が関係機関との調整を図った。今後もスマート農業普及に向けて継続支援を行う。



【実演会での収穫風景】

■下宮青果部会協議会 小松菜部会研修会の開催

11月22日、県園芸特産振興会小松菜部会研修会が開催された。

種苗メーカーを講師として招き、夏の高温に対応した新品種の栽培方法についての講義が行われた。

農林事務所からは高温対策（遮光や換気等）や、今年問題となった病害虫（アザミウマ、白さび病等）について、みどりの食料システム戦略を意識した対策を提案した。

小松菜栽培においても高温対策は喫緊の課題である。農林事務所として次年度の夏に向け、より具体的な対策提案ができるよう、準備に努める。



【研修会の様子】

■いちじく 土壌診断等説明会を開催

12月11日、海津いちじく部会の土壌診断等説明会がJAにしみの海津営農経済センターで行われた。

説明会では、JAが実施した土壌診断の結果の見方、および結果に基づく施肥、土作りについて農林事務所から説明を行った。あわせて、部会事務局であるJAから令和6年産いちじくの販売実績、肥料農薬の注文等について説明が行われた。

海津いちじく部会は、会員数5名、栽培面積約1haと小さな組織である。しかし、野菜担当の普及指導員の働きかけもあり、施設野菜農家の夏期換金品目として、いちじくの導入を検討する動きが見られるようになった。

農林事務所では、施設野菜＋果樹（いちじく）の理想的なモデルができるよう支援していく。



【説明会の様子】